

2015
6月
第55号

かい
海

公民館報

よう
陽



海南文化村で手作りこいのぼりをあげる園児

第10回

文化協会祭

ゴールデンウィーク期間中は、行楽日和に恵まれて、皆さん外出されたり、家でゆっくりと過ごされたりと、それぞれに楽しまれたことと思います。

海南文化村でも、連休の期間中に第10回海陽町文化協会祭（5月1日～10日）、阿波海南文化村祭（5、6日）、芸能大会（10日）が開催され、たくさんの方がご参加くださいました。

展示の部



押し花



絵手紙



俳句

川柳



パッチワーク



絵画



水墨画



書道



写真

芸能の部



安藝会長の
あいさつ

文化協会祭に出品された作品を見させて
いただきました。芸能大会では、全プログ
ラムを観賞し客席から拍手を送らせていた
だきました。

たくさんの方の前で表現し発表するとい
うことは、十分な訓練と練習が必要となり
ます。会員の皆様の継続した努力に頭が下
がりました。

「好きこそものの上手なれ」という言葉
があります。好きなことがあり、楽しい時
間を持つということはすばらしいことです。
何か楽しいことをやってみたいと考えてい
る方は、勇気を出して仲間の中にはいつて
下さい。あまり気が進まないとしても、仲
間といっしょに続けていると、きっと楽し
くなってくることでしよう。また、これと
思うものがないときは、自分で新しいサー
クルを立ち上げて下さい。海陽町文化協会
は、現在52団体があり、総会員数646名です。

安藝 淳二

民踊



三味線



ダンス





レクダンス



阿波おどり



詩舞

阿波海南文化村祭



まがたま
勾玉作り



スーパーボールすくい

尼もの会による
絵本の読み聞かせ



移動図書館



あめ細工ショー

「人権力」ですみよい町に！

格差と人権②

社会教育指導員 佐藤 和久

労働格差問題

格差社会のマイナスイ面が顕著に表れているのが労働格差です。いわゆる正規、非正規といわれる雇用形態の問題や賃金格差の問題です。若い世代を中心に、非正規労働者の割合は増える一方であり、正規・非正規の賃金格差も拡大しています。一昨年、県内各地のいくつかの職場で働く機会がありました。非正規の若い人たちが、安い賃金で過度な労働を強いられているという現状を見てきました。安い賃金にたまりかねて福島を除染作業に出かけたという話も聞きました。賃金格差から結婚・子育てなど、将来に対する生活設計や展望が持てないという話もよく耳にします。また、正規雇用であっても非正規のような条件で働いている例も多くあるようです。

では、なぜこのような正規、非正規のような労働格差が生まれてきたのでしょうか。その大きな原因のひとつに、市場原理主義のシステムが格差を助長してきたということがあります。具体的に言いますと、世界は21世紀に入って急速にグローバル化が進みました。企業はそこで生き残っていくために多額の資金や投資を必要とします。そのため、上げた利益は「株主配当」「設備投資」「内部留保」などに多くが回されました。人件費はできるだけ削減しようということから、正規を減らし、非正規社員やパート・アルバイトを増やしたわけです。ちなみに、日本の大企業の株主の3割（ここ10年で大幅に増えました）が外国人であり、配当という形で利益は外国に流れていきます。

次に、このような労働の現

状を人権の視点で考えてみたいと思います。「労働」という営みを人権というフィルターにかけてみますと、おかしな部分が浮かび上がってきます。生存権が脅かされているのではないかと思われるような要素がたくさん目につきます。

正規・非正規に関しておかしな部分を一つ挙げるならば、労働に対する評価の基準が企業側の都合でつくられているということだと思います。本来ならば、技能・労働環境・労働時間などによって公平に決められなければならないのですが、そうなっていないところに差別性が見えてきます。

また、企業論理について一つ指摘するならば、利益につながる者排除しようとする仕組みが存在することです。利益追求が至上命題である企業論理からすればあたりまえと言われるかもしれませぬ。しかし、弱者を切り捨てるシステム、労働を商品としか見ない論理は、住みにくい社会をつくり、未来を見えなくしてしまします。

一般的に、市場原理の競争

社会の中では、低い賃金しかもらえないのは「努力がたりない」「能力がない」など、本人の問題であるという自己責任論で片付けられがちです。しかし、生まれた時の経済的環境や本人の特性などは変えようがありません。また、病気や事故などの理由で一旦レールから外れた場合、日本は元に戻る事が非常に困難な社会です。

私たちはこのような市場原理主義の持つ非人権性を克服しない限り、真の「豊かな世の中」をつくることはできないように思います。「資本主義が犯した最大の罪は、人間性を破壊したことです」と言ったのはアインシュタインですが、現代社会の労働のあり方について、今一度考え直してみるのが必要なのではないでしょうか。



生涯学習講座

昨年引き続き親子で春の体験講座が実施されました。

<生涯学習の趣旨>

生涯学習は、健康で豊かな生活を営み、仕事に役立つ知識や技術を身につけて、いきがいのある充実した人生を過ごせるように生涯を通じて行う学習活動のことです。

お茶碗(茶道用)を作ろう!

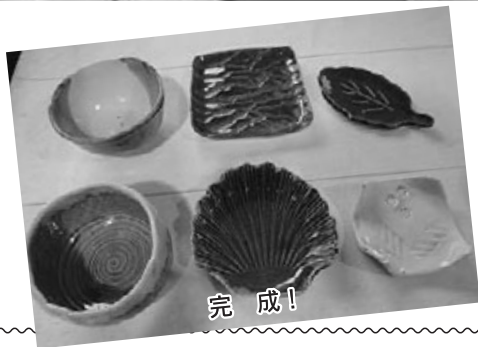
◆型をとってつくるお皿づくりと、ろくろ台を使って手びねりで茶碗づくりをしました。



どんなお皿にしようかな!



プロの技を見て、自分もできるか心配です。



完成!



茶碗は口が広がらないように!

茶菓子皿を作ろう!



みなさんすごく真剣です!

◆木の皿の底となる部分を電動カンナで削り、表面を紙ヤスリで整え、彫刻刀を使ってオリジナルの木皿を制作しました。また、ヤスリを使って黒文字(ようじ)を丁寧に磨いて成形し仕上げました。



初めての電動カンナ。。。緊張します。

藍染めふくさを作ろう!

◆少し厚めの綿生地を使って思い思いの柄を想像しながら、割りばしやビー玉などをゴムで縛って藍につけこみました。

どのような柄になっているかは、輪ゴムを取ってみないとわからないので、外す時は緊張の一瞬です。



何度も染め付けます。



いい染まり具合です。

※親子で2人1組での参加が原則ですが、お孫さんとおじいちゃん・友人同士、いろいろなおパターンで参加できるよう対応いたしますので、お気軽にご相談下さい。
次回の夏の体験講座も現在企画中です。お楽しみに!

阿波海南 文化村祭

「阿波海南文化村祭」では、ロビン・ロイドさんをお招きして、5月2日(土)～5月6日(水)に「ロビンとガクの絵本展」と、5月6日(水)に「ロビン・ロイドの見える音、聞こえる絵 ミュージック&アート」、「ロビン・ロイドの世界民族音楽の旅」をそれぞれ開催しました。

絵本展では絵本「1年に1度のアイスクリーム」「HAPPY BIRTHDAY Mr. B!」の原画を展示しました。

また、5月6日は、ロビンさんが収集したカリンバや動物の骨から作った笛、尺八等様々な世界の民族楽器を使用して、音楽療法のワークショップと、コンサートが行われました。

ロビンさんは「楽譜やドレミファソラシドという音階は、ほんの一部の国でしか理解されていない」「音楽はもっと自由に奏でるもの。一緒に心で楽しみましょう」と観客に呼びかけ、ともに歌い合う、とても楽しいライブとなりました。

子どもと大人の笑い声が響き合う、楽しい5日間でした。



参加者の皆さんの感想

- ・「ロビンとガクの絵本展」が良かったです。展示の高さも子どもの目線に合わせてあって、小学生の息子と楽しめました。(30代女性)
- ・今年はずっとこどもの日のイベントに参加しました。盛り沢山で楽しかったです。2日間通ってしまいました。また企画楽しみにしています。(50代女性)
- ・大型連休に遠くに出かけなくても自分の町で手作りの文化に触れることができとてもよかったです。子供も高齢者も楽しめる内容で今後もよい企画をお願いします。皆に力がわいてくるようで嬉しかったです。(60代女性)



今回はじめて阿波海南文化村祭を企画し、2日間で延べ約1,000人の来場者がありました。秋にも、地元のよさを生かした企画を考えております。ご期待ください。



この連休最終日5月6日に結成15年になる劇団レインボーの「明日につなぐ」と題しての公演があった。メンバーの入れ替わりはあるもののずっと劇団としての活動が続いている。結成以来の女性4人の力が大きい。

今回の舞台も稽古を重ね、最終リハーサルに大阪から岸田さんが駆けつけてくれた。劇団結成時指導をお願いした縁で、何かあるとたびたび教を請うている。指導者でもあるが、劇団の一員でもある。今回も演出してもらおうと、今までどこになかった舞台が見事にまとまりテーマが明確になった。

今回の出演者の中の一人で、小学校時代からこの劇団の一員で舞台上がっていた少女が、大人になって再び舞台上がってくれた。学生時代には自身の参加は無理だったが、公演のチラシの原画を描いてくれたり、ずっと団員であり続けてくれた。今は、二人の子の母である。

公演中この役者の上の子が母を追って飛び入りで出演した。生の舞台のおもしろいところだ。今にも駆け寄りそうな雰囲気が続いていた中での出来事で客席からもあたたかい笑いが漏れる。このとき役者達のアドリブがいかにかできるか。楽しみに見ていると何とかうまく溶け込んだ。これまでも稽古をするなかでエチュード（即興劇）の練習もする。練習のたまものか。母の力か。シナリオにないことがあこる。その対処。役者同士の言葉にならない語りが聞こえるのが生の舞台ならではの醍醐味である。

公演後、舞台の袖ではこの役者のご主人が下のお子さんを抱いて見守っていた。役者の家族もスタッフの一員である。

秋には、町内の民話から脚本にしたものを公演する予定だ。是非、期待していただきたい。生の舞台ゆえに客席との一体感を楽しんでいただけたらと思う。

劇団レインボー スタッフ

※追伸 町内で活躍しているサークル等、順次紹介していきます。

穴喰俳句

五月例会より

まないたを刻むリズムや初夏の風
 老農の畦塗る鍬の自在かな
 亡き人の草履色あせ暮春かな
 悪さした野良猫かくまって葱坊主
 昭和の日配られている散らし寿司
 一人身となりし友への豆の飯
 昼下り弾むペダルに若葉風
 葱坊主だんまりという反抗期
 春雷や早目に寝ても寝つかれず
 ソプラノもアルトも揃い囁れる
 山笑う君の便りを待ちながら
 花明り少女がひとり立っている
 一陣の嵐の中を花の舞う
 アマリリス日課のごとき草むしり
 摘草やふたり分だけあればいい
 ベビーカー手足はみ出し花の下
 寺町に大きなお寺つばめ来る

陸田ヨネ子
 鍛冶田 晟
 元木 栄子
 新井 駿也
 長岡 達江
 中岡 啓泰
 樽井みつ子
 新井 久実
 梅田千恵子
 川野 佳代
 外山 千佳
 山本 球子
 中島 時
 間戸谷恵子
 元木 朱子
 寺崎 照代
 木下野生

海南俳句

蛙鳴く山懐に生家あり
 白きアイリス英霊の供華となす
 大きめの制服届く入学期
 霧晴れて芦ノ湖見ゆる峠かな
 過疎の村水面をのぞく藤の花
 かたばみ草狭庭に野趣をもたらせり
 草青み土手行く老女脚弾む
 初つばめ声高くして旅のこと
 わが植えし桜満開見上げけり
 咲きて散る運命逃れぬ花なるぞ
 裕次郎思い出させる霧の海
 娘の一人Uターンして村は春
 緊張と笑顔で見上げる花嵐
 風ゆすり散りし桜の花の舞
 磯遊び一人地球に残されし

田中たち子
 橋本 幸子
 谷口洋根子
 廣瀬 克子
 新居 利之
 叶岡 陽二
 岳山 祐弘
 津川須美江
 鍛冶崎 郁夫
 山本 達平
 森口 豊子
 富田 聞二
 平道はつ子
 坂本 節子
 武知 陸子

NEWS!

海陽町立博物館の

公式 **facebook** が

始まりました!!

博物館・文化村関係の行事・イベントのお知らせだけでなく、文化村の魅力や行事・イベントの裏側などもお伝えしていきたいと思えます。

どうぞ「いいね!」をよろしくお願いします。

【Facebook Webアドレス】

www.facebook.com/Kaiyo.Museum

